

ふるさとわがまちづくり

保見ヶ丘六区自治区

◆「保見ヶ丘六区」の由来

名鉄豊田線の浄水駅から北へ4キロメートル、山に囲まれた中に高層住宅がそびえる大きな町が広がります。県下でも有数の約4000戸のマンモス住宅“保見団地”です。

「保見団地は、東保見町、保見町の共有地でした。ここを売ろうという話が出たのは昭和38年頃ですが、工場か住宅かと随分話し合いました。一時はトヨタ自動車の住宅やゴルフ場という話も出ましたが、最終的には住宅ということになり、住宅公団、県、名鉄に売ることになりました。売買契約は昭和44年まで4年間かかりました」と当時の区長さんから聞いています。

こうして、昭和47年から造成が始まり、3年後に入居できるようになり、現在では4つの自治区ができました。

そのうちの1つである保見ヶ丘六区自治区という名称は、第一管理組合(117棟～120棟)が分譲として最初にできた自治区であり、住所が6丁目1番地であることから、六区自治区と名前が付けられたことから、そのまま自治区名につけられています。

◆「保見ヶ丘六区」の行事・活動

① 草もち大会

1995年から、自治区内で毎年恒例の『草もち大会』が行われています。今年で15回目になる「草もち大会」は



六区の区民総出で行われるイベントです。最近では日系ブラジル人の参加も見られるようになりました。合わせて、子ども会による子ども神輿(みこし)も行われるようになり、子どもたちが飾り付けをしたお神輿で練り歩きます。

② 自治区夏祭り

四自治区盆踊りの定番となっている「保見ヶ丘音頭」は10年程前に子供達が大人になった時に、思い出して故郷に帰ってきて欲しいという思いから四自治区民へ歌詞、歌手を公募し作られた曲です。

③ 下校時の見守り活動

つくも会(老人会)が西保見小学校の下校時の見守りをおこなっています。毎月第二土曜日夜7時から、「保見ヶ丘パトロール」による自治区内のパトロールをしています。

④ 自治区だより

『自治区だより』毎月月初めに発行。日系ブラジル人のためにポルトガル語に翻訳版も発行しています。



◆自治区の課題

現在、自治区の加入者が減る傾向にあり、区費が集まらない、また、ごみ問題・騒音・駐車場の不足問題が生じています。

実際には、828世帯ありますが、賃貸棟の世帯数は把握できない状態です。

これからの課題は、安心安全な自治区づくり。災害時の安否確認のネットワークづくりです。

保見ヶ丘六区自治区データ

(H21.4現在)

設立：昭和54年

世帯数：450世帯

45世帯(昭和54年)

組数：73組

面積：0.110K㎡

自治区だより：「区民だより」

回覧：月2回

防犯灯設置箇所：33箇所

小学校：西保見小学校区

自治区会館：保見ヶ丘六区集会所